

ZENRIN

証券コード：9474

2021年3月期 第1四半期決算

2020年7月30日

株式会社ゼンリン

1. 2021年3月期 第1四半期決算概要

2. 2021年3月期 業績予想

3. Appendix

注)本資料には、本資料作成日時点で入手可能な将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。世界経済の動向・市場需要・競合状況・為替の変動等にかかわる様々なリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予想数値と大幅に異なる可能性がありますことをご承知おきください。
尚、本資料掲載情報は、表示単位未満の端数切捨て、増減率の小数点以下第2位四捨五入し小数点第1位まで記載しております。
また、増減率が1000%を超える場合、及び一方若しくは両方がマイナスとなる場合は「－」表記しております。

1. 2021年3月期 第1四半期決算概要

- 1) 決算概要
- 2) 売上高・利益の推移
- 3) 営業利益増減要因
- 4) 中長期経営計画(ZGP25)で区分した事業別売上高
- 5) セグメント情報

1-1) 決算概要

2021年3月期 第1四半期決算のポイント

前年同期比【減収減益】

- ストック型サービスのGISパッケージや自治体向けの受託案件が堅調に推移したものの、オートモーティブ関連で国内外のカーナビゲーション用データ販売が大幅に減少し、売上高は2期連続減収、営業利益、経常利益も2期連続の減益
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に計上した特別損失の規模縮小などにより、2期ぶりに改善

(金額単位:百万円)

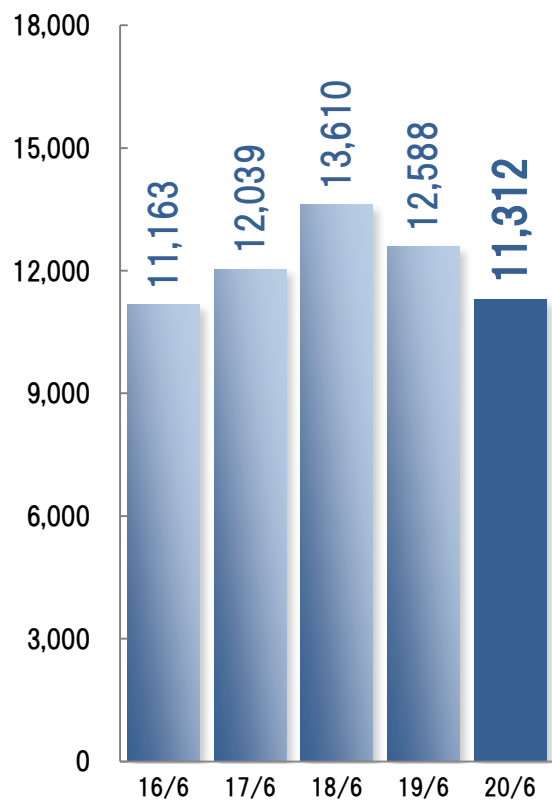
	2020年3月期 1Q実績	2021年3月期 1Q実績	前年同期比	増減率 (%)
売上高	12,588	11,312	△1,275	△10.1
営業費用	13,222	12,443	△778	△5.9
営業利益	△634	△1,130	△496	—
営業利益率	△5.0%	△10.0%	△5.0pt	
経常利益	△390	△1,016	△626	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△640	△621	18	—

1-2) 売上高・利益の推移

売上高

前年
同期比

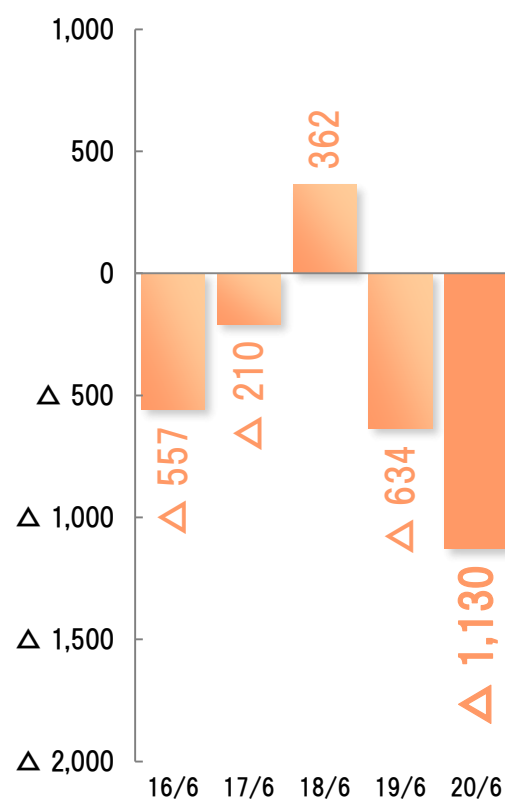
1,275減少 (△10.1%)



2期連続減収

営業利益

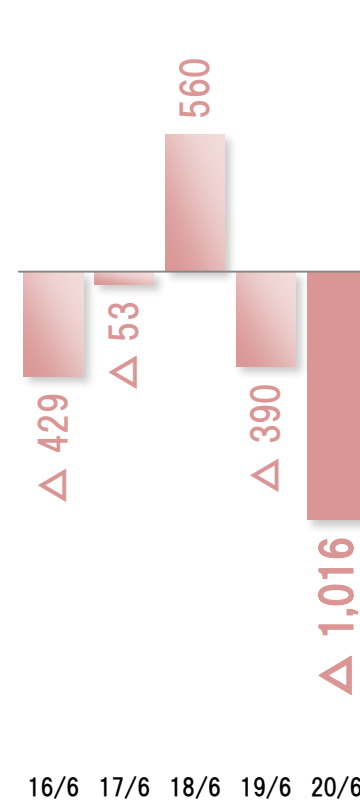
496悪化 (—)



2期連続損失

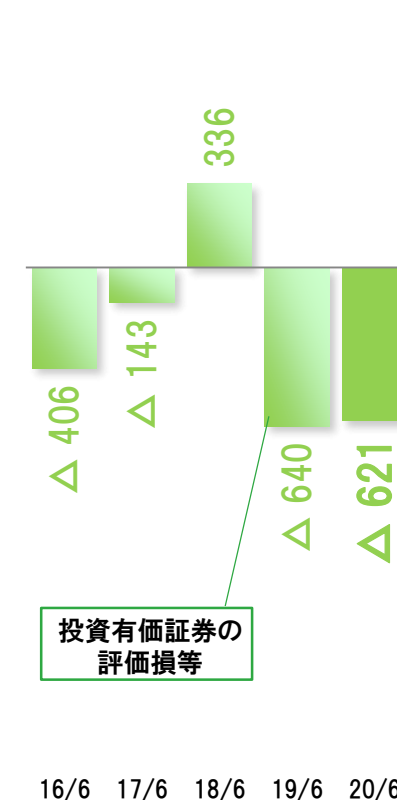
経常利益

626悪化 (—)



親会社株主に帰属
する四半期純利益

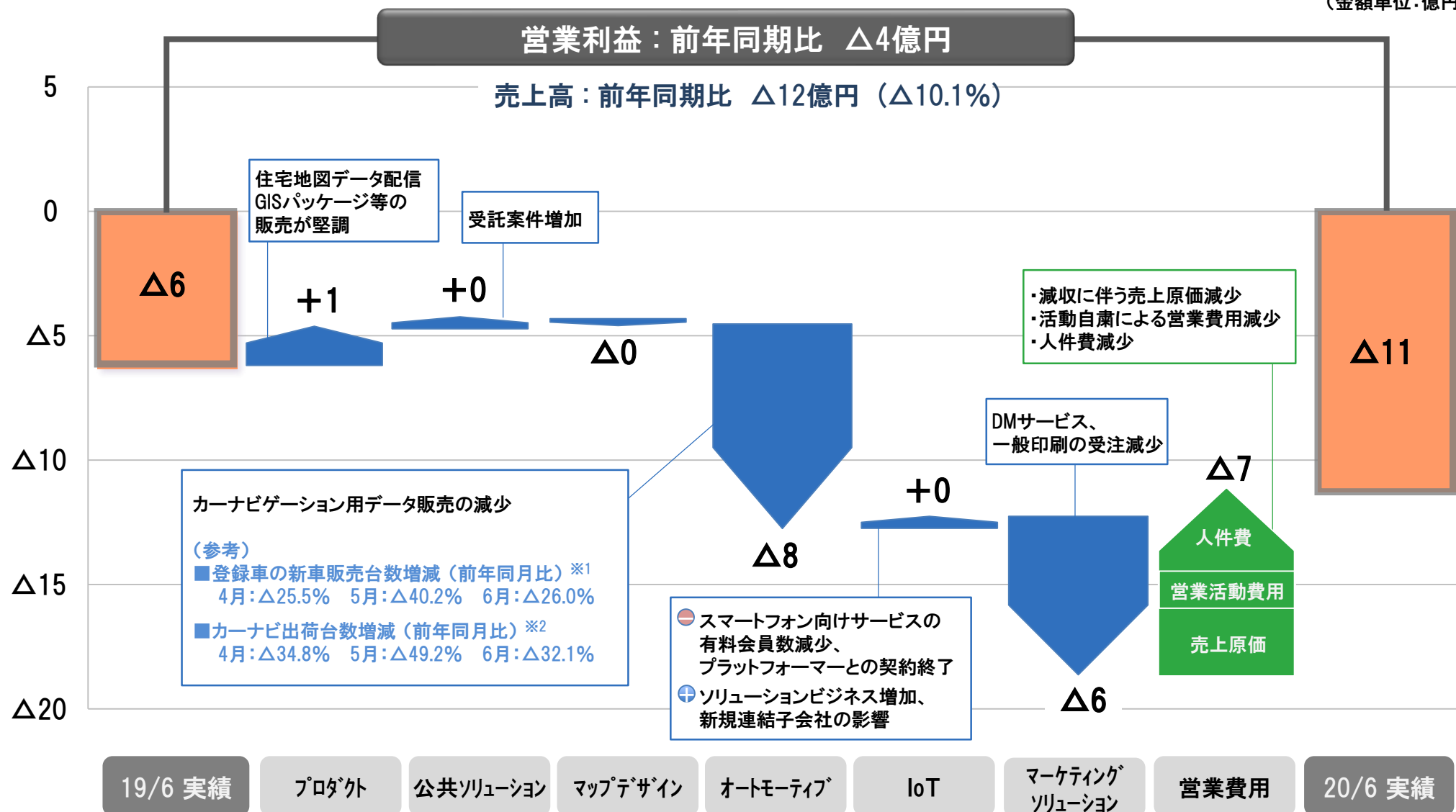
18改善 (—)



投資有価証券の
評価損等

2期ぶり改善

1-3) 営業利益増減要因

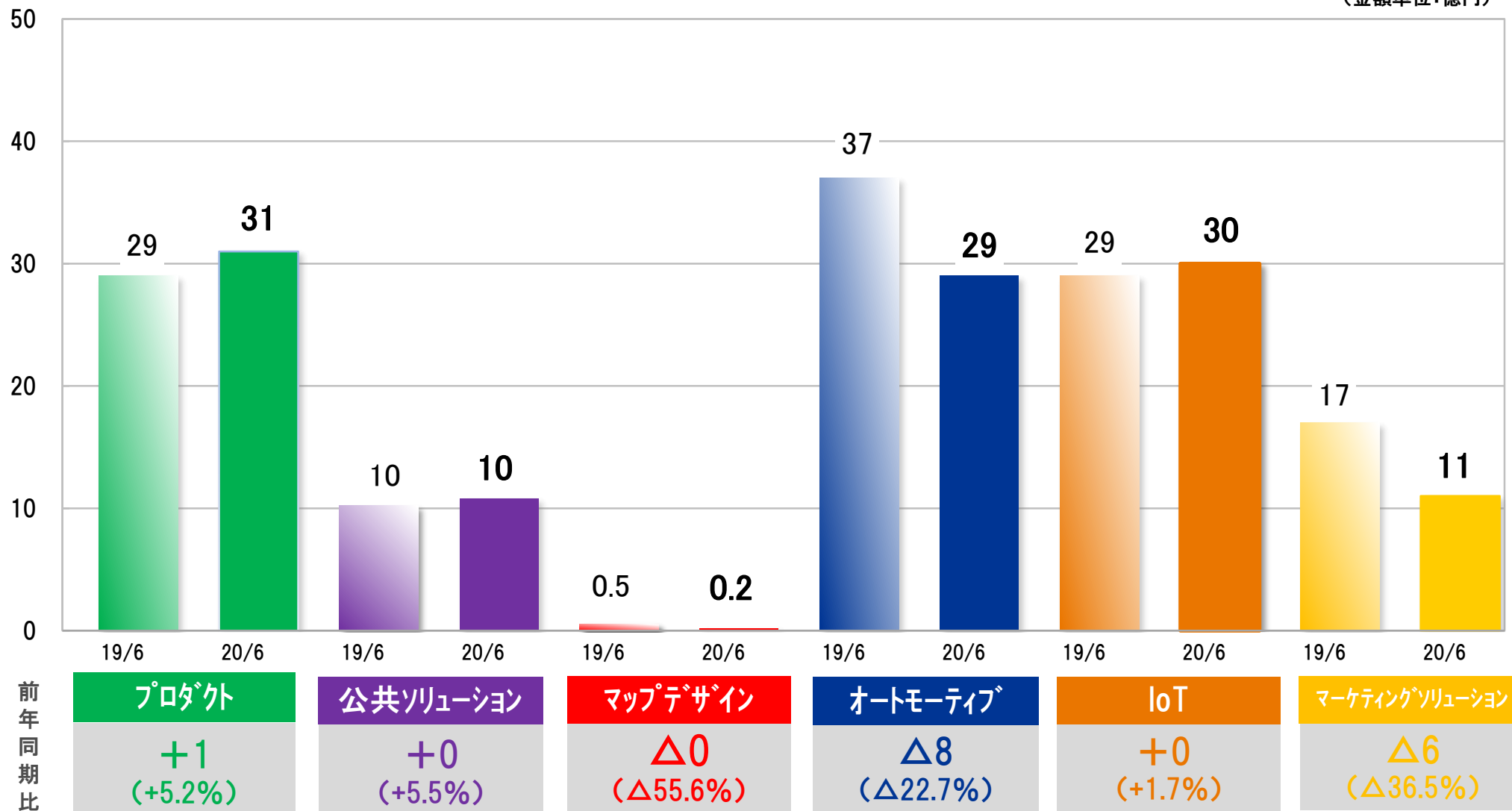


【出典】※1:(社)日本自動車販売協会連合会「新車・年別販売台数(登録車) 車種別販売台数」

※2:(社)電子情報技術産業協会「2020年民生用電子機器国内出荷統計」

1-4) 中長期経営計画(ZGP25)で区分した事業別売上高

(金額単位: 億円)



1-5) セグメント情報

売上構成
比率

84.1%

1. 地図データベース関連事業

主要品目等：住宅地図帳及び応用地図の製造・販売
住宅地図データベース及びカーナビ用データの製造・販売
インターネットサービス向け地図データの製造・販売
スマートフォン向けサービスの提供



3.9%

2. 一般印刷関連事業

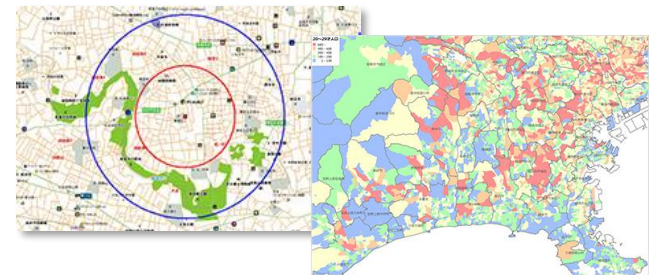
主要品目等：一般印刷物の製造・販売



12.0%

3. その他

主要品目等：マーケティングソリューションの提供
仕入商品の販売



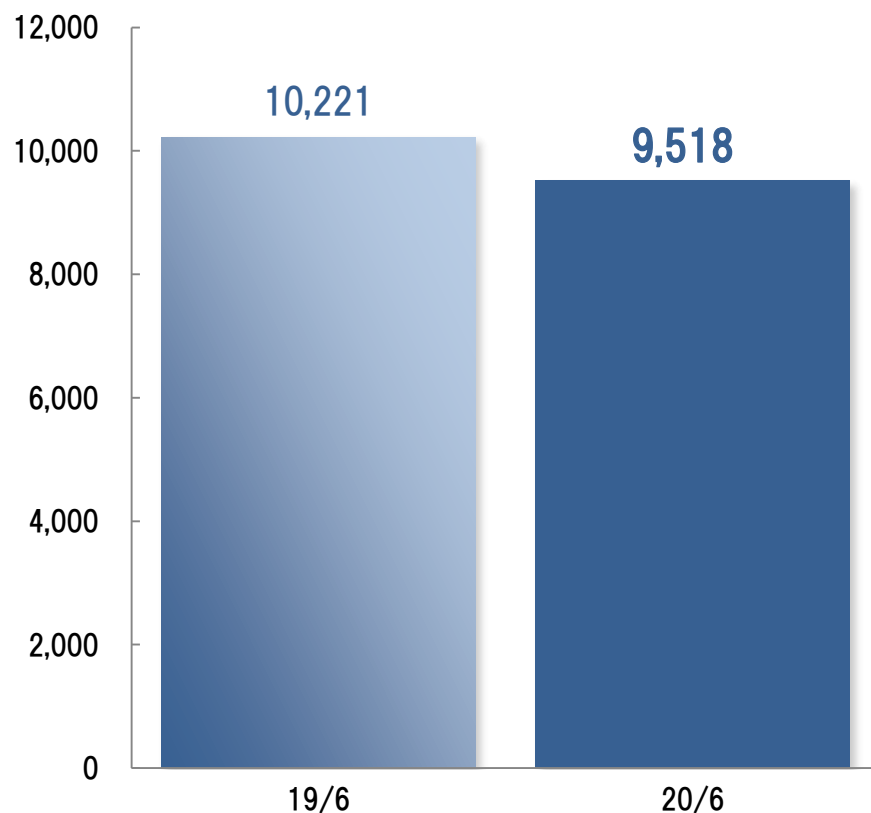
1-5) セグメント情報：地図データベース関連事業

2021年3月期 第1四半期決算

売上高

前年
同期比

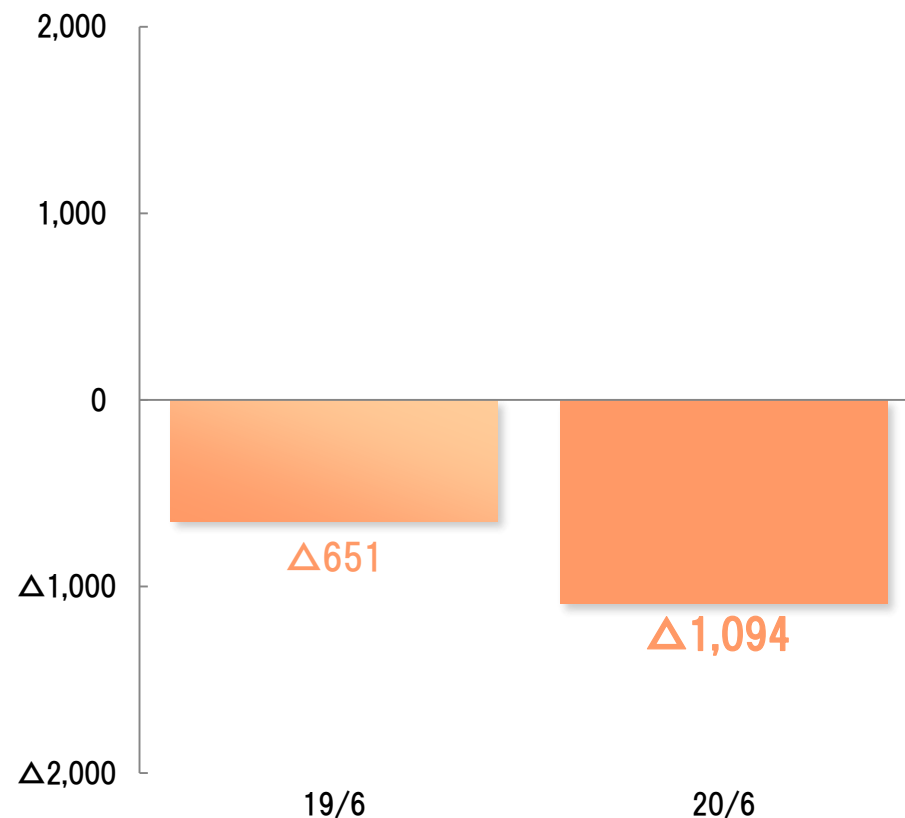
702減少 (△6.9%)



営業利益

(金額単位:百万円)

443悪化 (—)



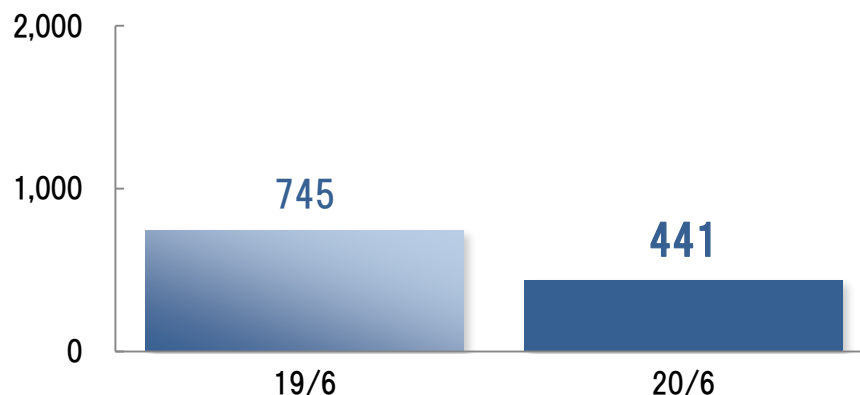
※2021年3月期第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの変更等を行っており、前年同期の数値を変更後のセグメントに組み替えた数値としています。

1-5) セグメント情報：一般印刷関連事業・その他

一般印刷関連事業

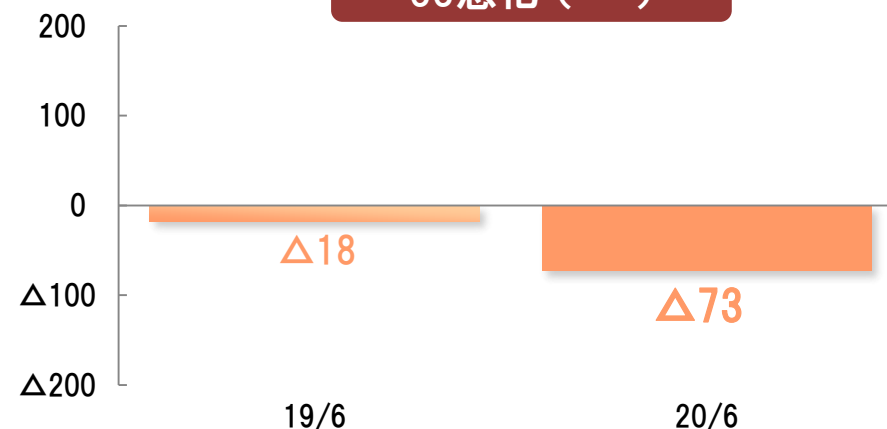
売上高

前年
同期比 **303減少 (△40.8%)**



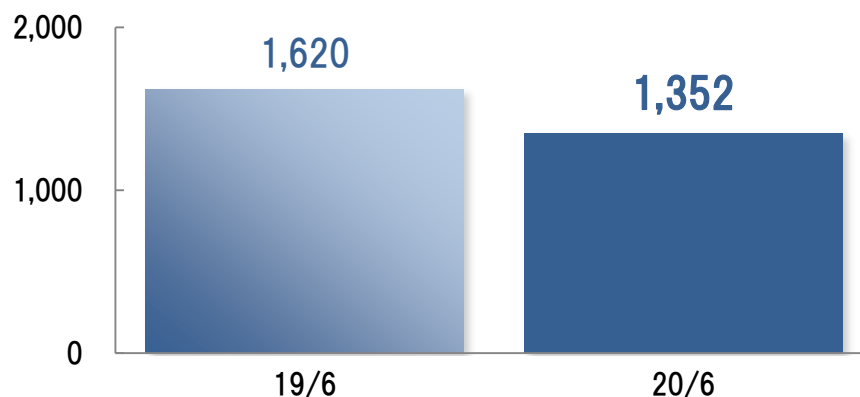
営業利益

55悪化 (—)

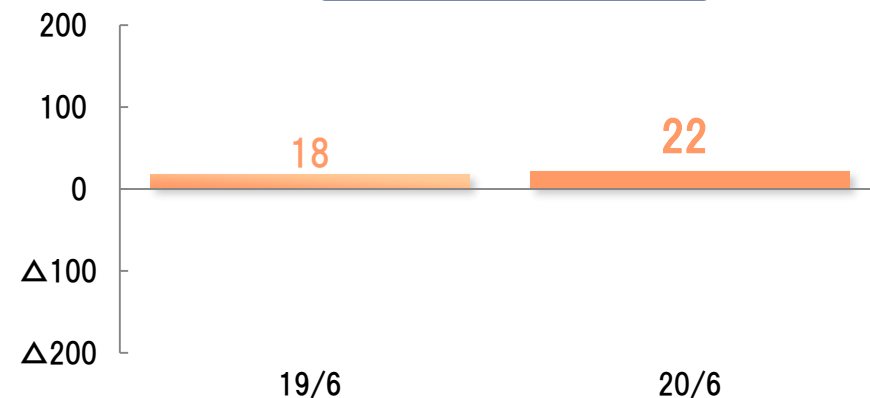


その他

前年
同期比 **268減少 (△16.6%)**



3増加 (+18.5%)



※2021年3月期第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの変更等を行っており、前年同期の数値を変更後のセグメントに組み替えた数値としています。

2. 2021年3月期 業績予想

- 1) 2021年3月期 業績予想
- 2) 売上高・利益の推移
- 3) 事業別見通し
- 4) 設備投資額・減価償却費・研究開発費
- 5) 株主還元
- 6) ZGP25 目標数値

2-1) 2021年3月期 業績予想

【前期比 減収減益】

■売上高は、上期の自動車販売台数減少に伴う国内外のカーナビゲーション用データ販売の減少などの影響が大きく減収

■損益面では、減収に加え、流通基盤開発や新規ビジネスに係わる先行費用の計上により減益

2021年3月期 第2四半期業績予想

	前期2Q実績	当期2Q予想	前年同期比	増減率(%)
売上高	26,803	24,500	△2,303	△8.6
営業費用	27,137	26,500	△637	△2.4
営業利益	△334	△2,000	△1,665	-
営業利益率	△1.2%	△8.2%	△7.0pt	-
経常利益	△65	△1,900	△1,834	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△224	△1,500	△1,275	-

2021年3月期 通期業績予想

	前期実績	当期予想	前期比	増減率(%)
売上高	59,771	58,500	△1,271	△2.1
営業費用	56,470	57,000	529	0.9
営業利益	3,300	1,500	△1,800	△54.6
営業利益率	5.5%	2.6%	△2.9pt	-
経常利益	3,709	1,700	△2,009	△54.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,633	900	△1,733	△65.8

【業績予想の前提】

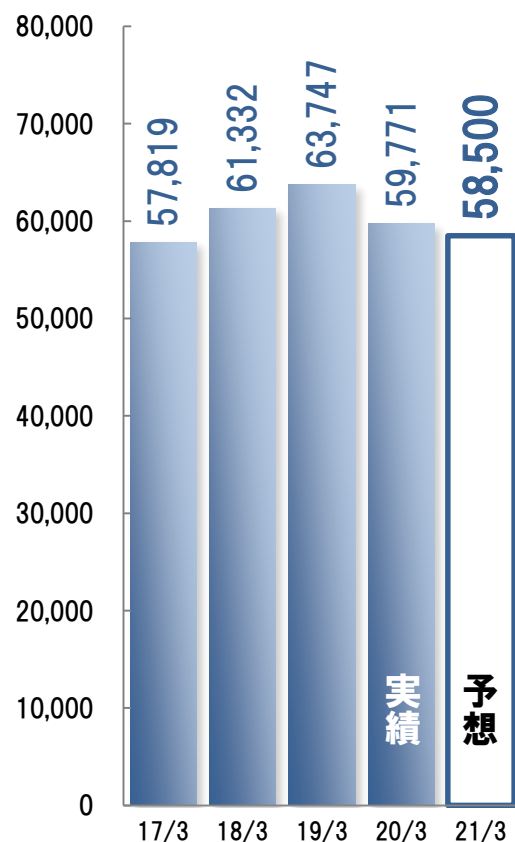
2021年3月期の業績予想については、新型コロナウイルス感染症の第2波による再度の緊急事態宣言の発出等の社会的制限が実施されず、経済状況が現状以上に悪化しないことを前提として現時点で入手可能な情報や予測に基づき算定しています。

上期において、自動車販売台数の減少や受託案件等の受注機会の減少などの影響が大きく、下期以降については、経済活動が回復し、それらの影響が縮小していくものと考えています。

今後の新型コロナウイルス感染症の収束時期や影響範囲等は大きく変動する可能性があり、当社グループの業績に影響を及ぼす事象が生じた場合には、速やかに公表します。

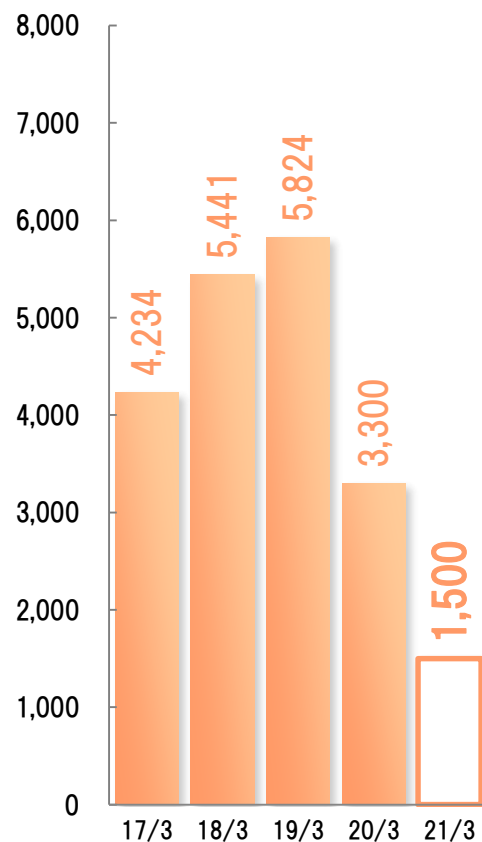
2-2) 売上高・利益の推移

売上高



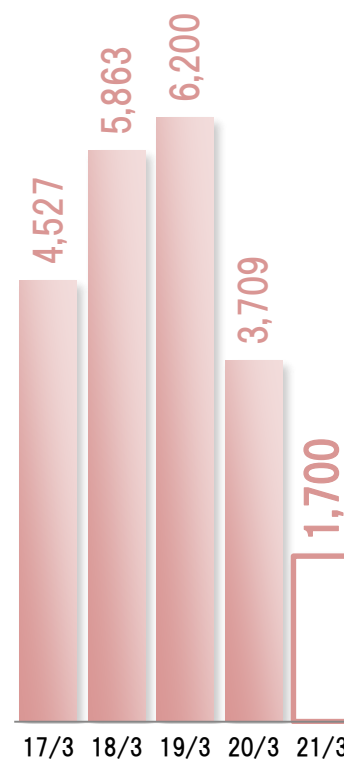
2期連続減収

営業利益

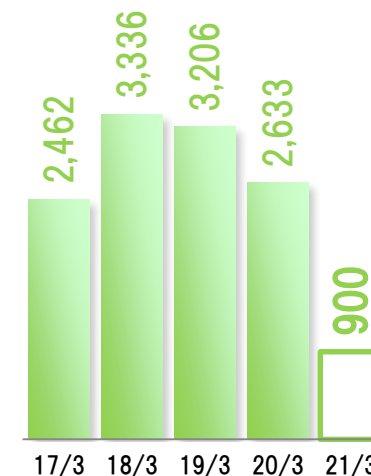


2期連続減益

経常利益



親会社株主に帰属 する当期純利益



3期連続減益

見通し

新型コロナウイルス感染症の第2波による再度の緊急事態宣言の発出等の社会的制限が実施されず、経済状況が現状以上に悪化しないことを前提に、上期は各事業へのマイナス影響が想定されるが、下期以降は回復を見込む

方針

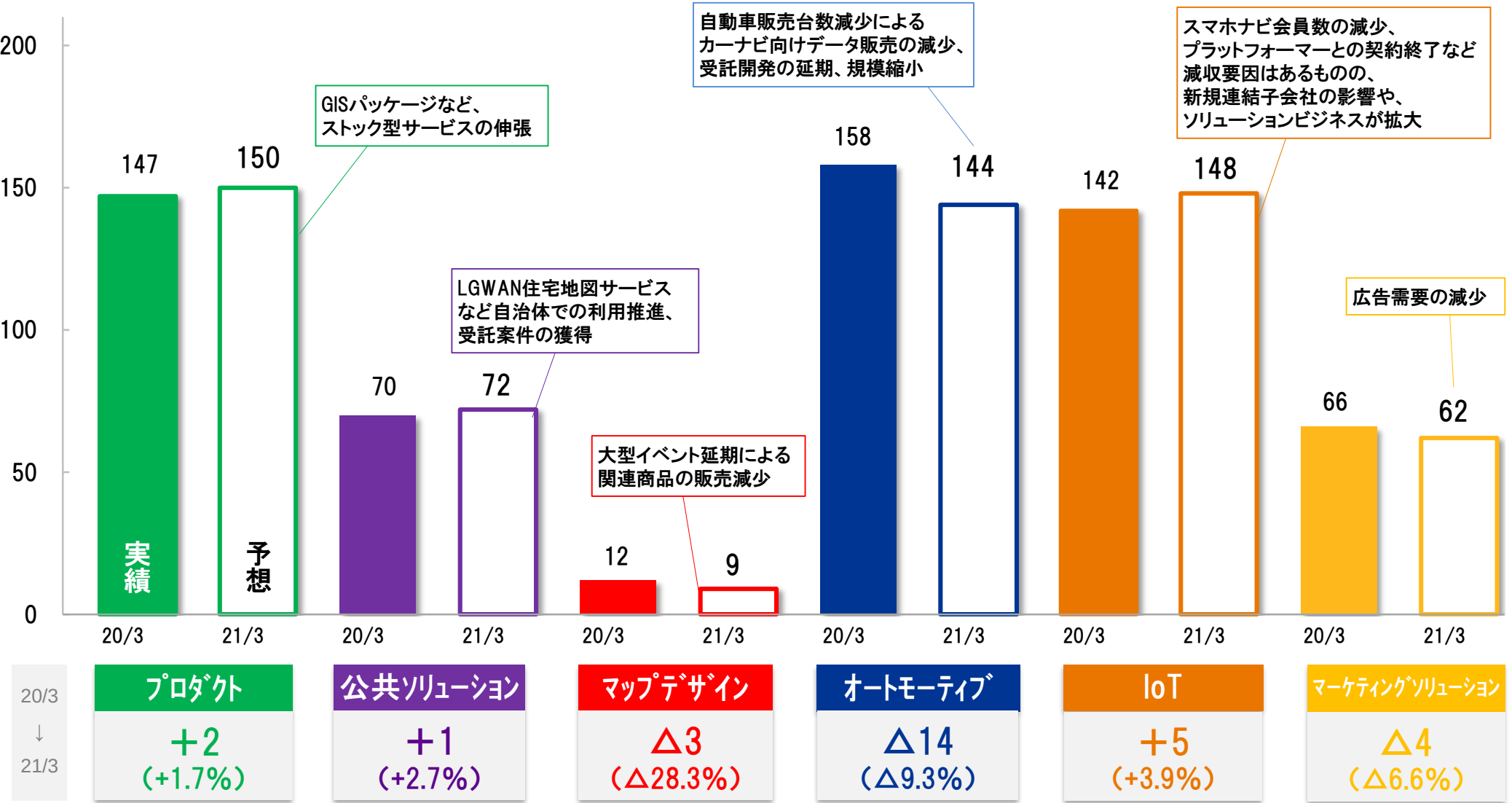
- 従業員の安全確保、グループ複数拠点体制での地図データ整備による事業活動の継続
- スtock型サービス等、ビジネスモデルの転換による収益安定化
- 新規商品・サービスの開発、事業基盤強化に向けた先行投資は継続

事業	コロナ禍において想定されるリスク	2021年3月期の見通し
プロダクト 公共ソリューション	経済活動低迷によるフロー型商品(地図帳等)の受注減少、営業活動制約による新規案件獲得遅延	➡ スtock型サービス(GISパッケージ、LGWAN等)の販売強化により、収益の安定的増加を見込む
マップデザイン	大型スポーツイベントの延期による関連商品販売の減少、消費の落ち込みによるコンシューマー向け商品販売の減少	➡ 新規商品開発、チャネル開発を加速するが、イベント延期等の影響により減収予想
オートモーティブ	自動車販売台数減少による国内外でのカーナビ向けデータ販売の減少、取引先の計画変更等による受託案件の延期・規模縮小	➡ 下期より自動車市場は回復の見込みだが、上期の大幅な落ち込みの影響により通期では減収予想 ADAS関連の研究開発投資、営業活動は継続
IoT	営業活動制約による新規案件獲得遅延、取引先の計画変更等による受託案件の延期・規模縮小	➡ 既存ソリューション案件のStocK化、下期以降の新規ビジネス開拓強化により増収予想
マーケティング ソリューション	企業の広告宣伝活動縮小による広告受注の減少	➡ 広告需要の落ち込みにより減収予想 「新しい生活様式」でのニーズ発掘、StocK型パッケージ商品のリリースを急ぐ

2-3) 事業別見通し

2021年3月期 第1四半期決算

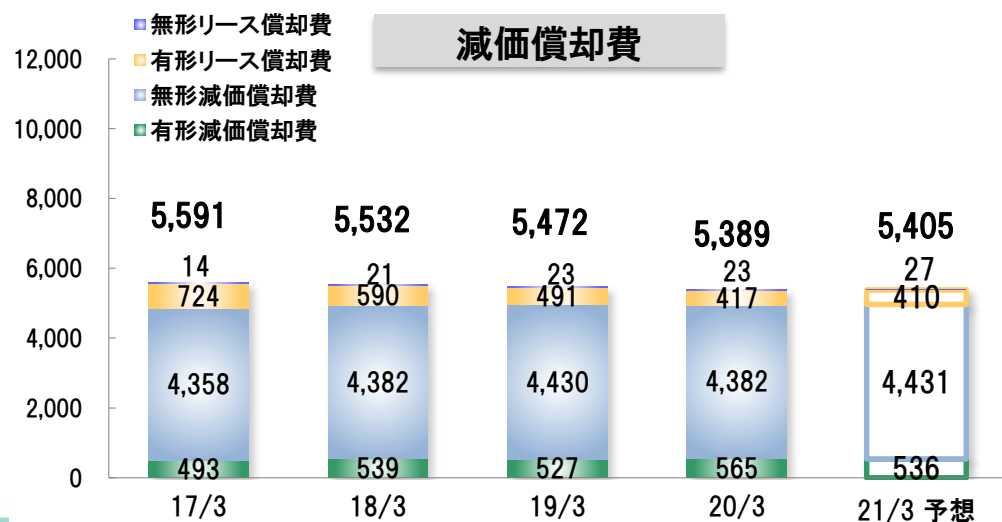
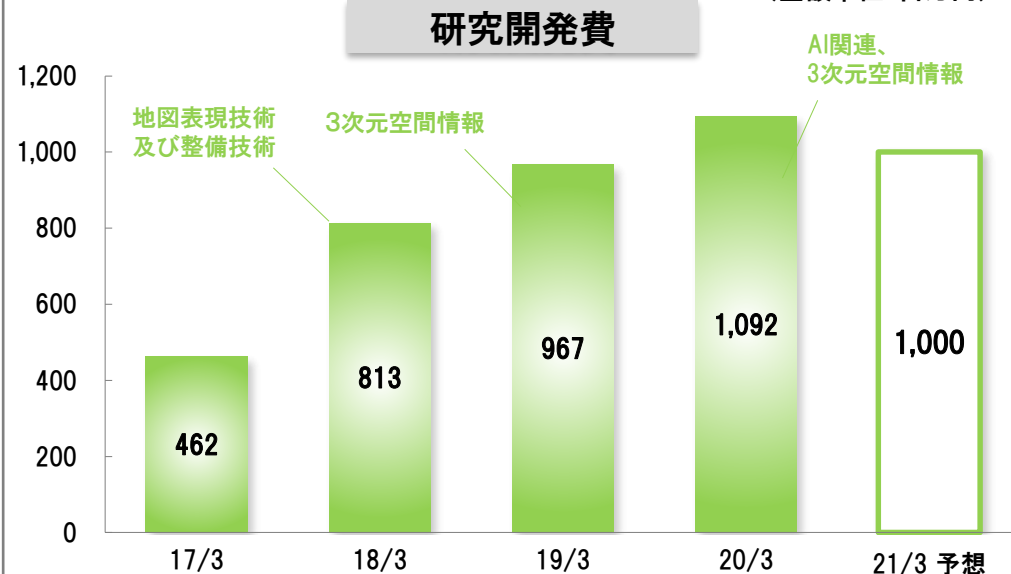
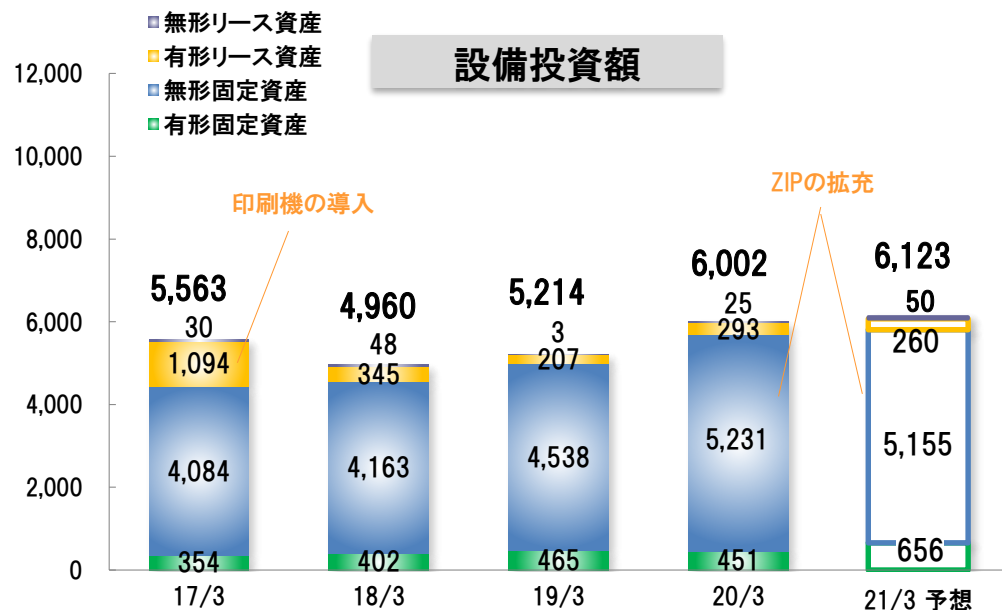
(金額単位: 億円)



2-4) 設備投資額・減価償却費・研究開発費

2021年3月期 第1四半期決算

(金額単位:百万円)

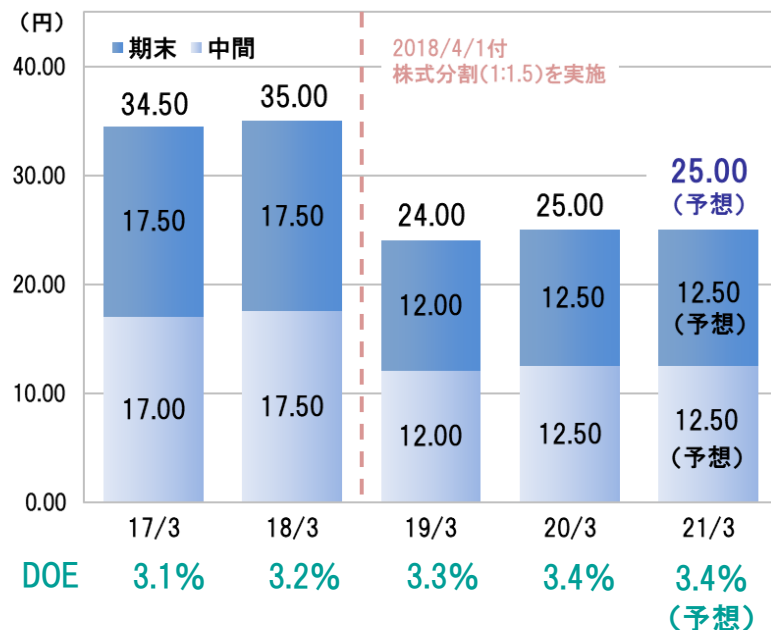


設備投資、研究開発費は
例年同レベルを維持

配当・自己株式取得は、基本方針に基づき継続実施

配 当	適正な内部留保を考慮しつつ、中長期経営計画における利益成長に基づいた利益還元を実施 → 連結株主資本配当率(DOE) 3% 以上を目標
自己株式取得	資本効率の維持・向上にも資する株主還元策として機動的に実施 → 資本状況、株価、市場環境、成長投資の機会等を考慮し決定

【 配当 ～DOE3%以上を維持～ 】



【 自己株式取得 】

2020年4月28日 取締役会決議内容	
取得期間	2020年5月1日～2021年4月30日
取得株数	2,000,000株 (上限)
取得金額	3,000,000,000円 (上限)
進捗状況 (%は進捗率)	
取得期間	2020年5月1日～2020年6月末現在
取得株数	802,700株 (40.14%)
取得金額	999,911,200円 (33.33%)

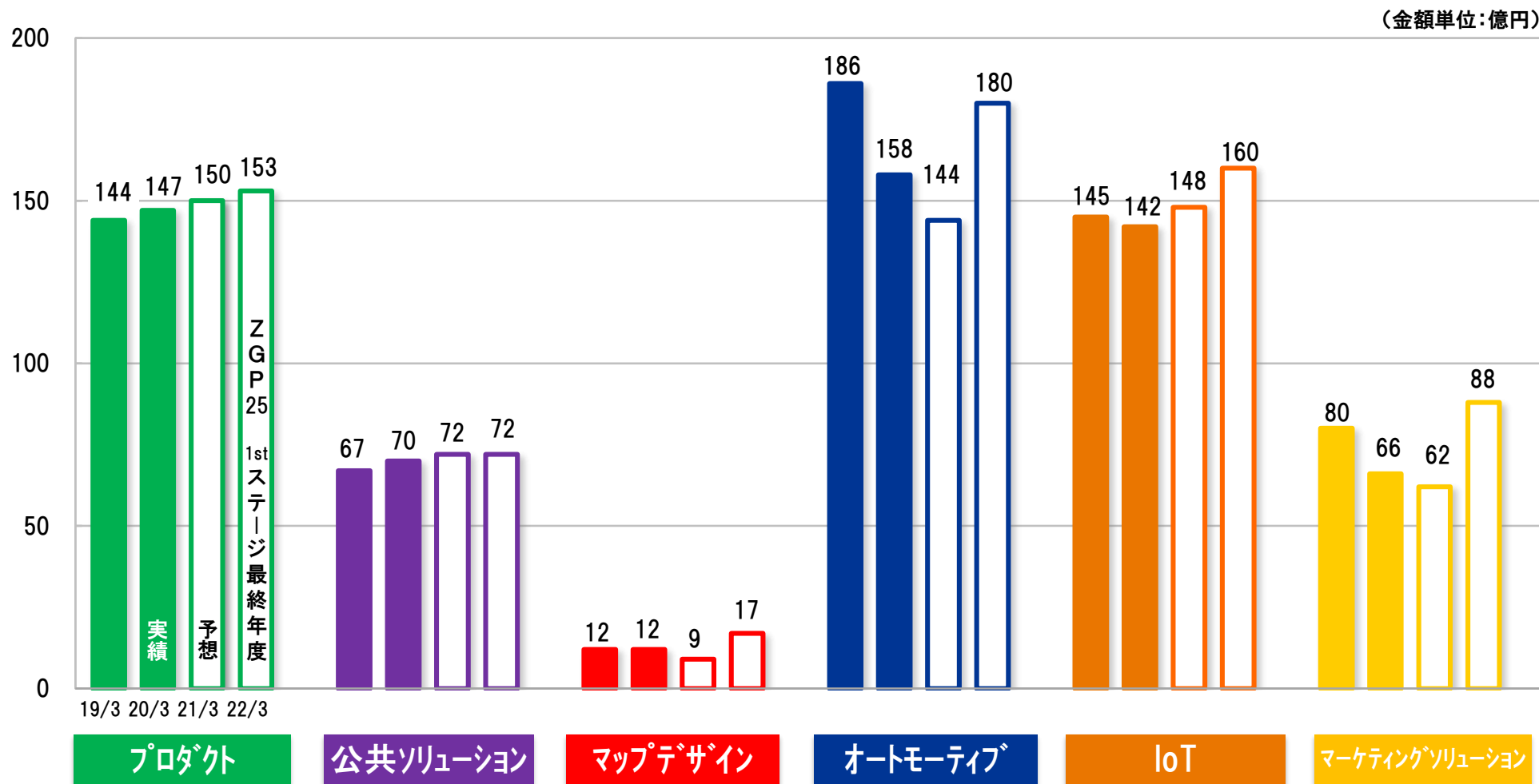
2-6) ZGP25 目標数値

ZGP25 1stステージ・2ndステージの最終年度目標(指標)は、2019年4月公表値を据え置く

	1stステージ			2ndステージ
	1年目	2年目	3年目	6年目
	2020年3月期 実績	2021年3月期 予想	2022年3月期 目標	2025年3月期 指標
連結売上高	597億円	585億円	670億円	800億円
連結営業利益	33億円 (5.5%)	15億円 (2.6%)	67億円 (10.0%)	100億円 (12.5%)
ROE (自己資本当期純利益率)	6.6%	2.2%	9.7%	10%以上
DOE (株主資本配当率)	3.4%	3.4%	3.0%以上	3%以上

2-6) ZGP25 目標数値 (1stステージ事業別売上高)

ZGP25 1stステージ最終年度の目標は、2019年4月公表値を据え置く



3. Appendix

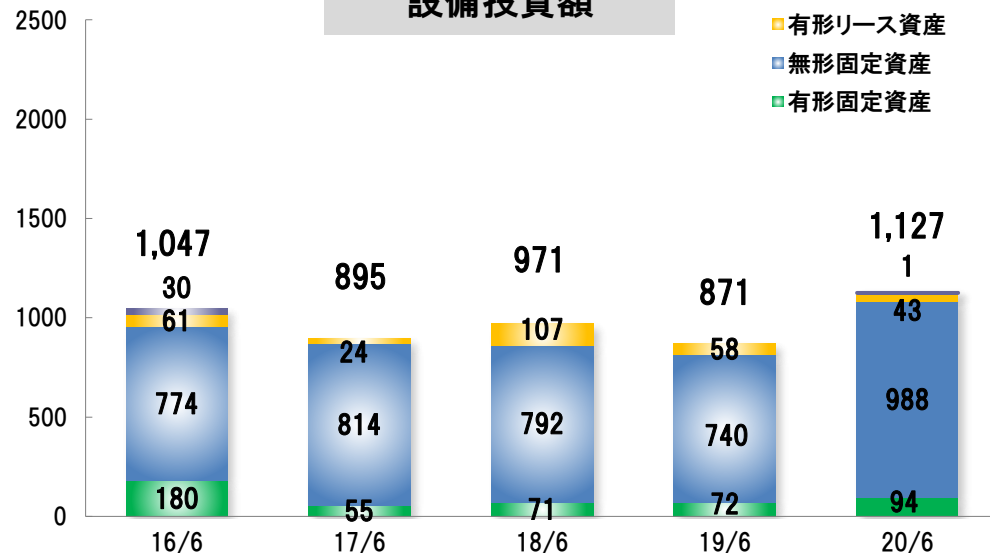
- 1) 2021年3月期 第1四半期
設備投資額、減価償却費、研究開発費
- 2) 2021年3月期 第1四半期 貸借対照表
- 3) 四半期売上高構成比推移
- 4) 事業トピック

3-1) 2021年3月期 第1四半期 設備投資額、減価償却費、研究開発費

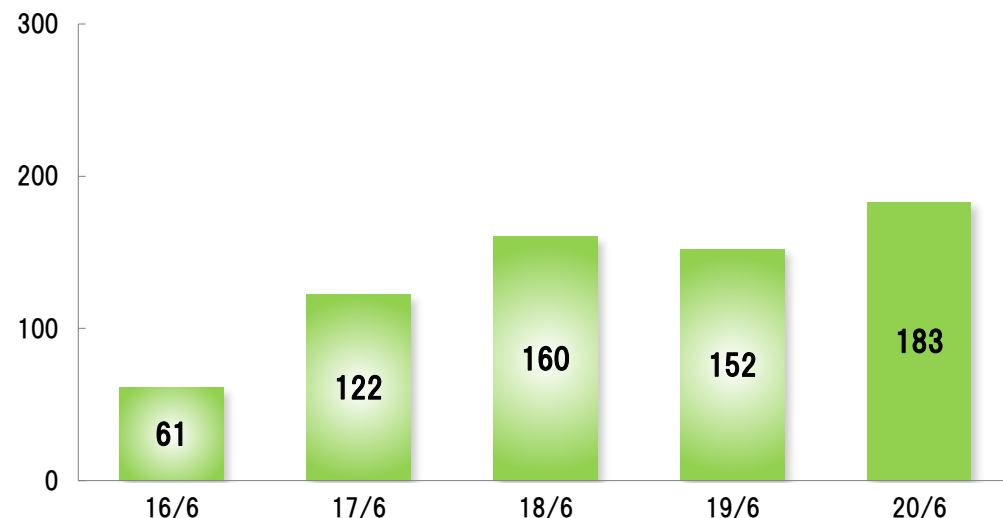
2021年3月期 第1四半期決算

(金額単位:百万円)

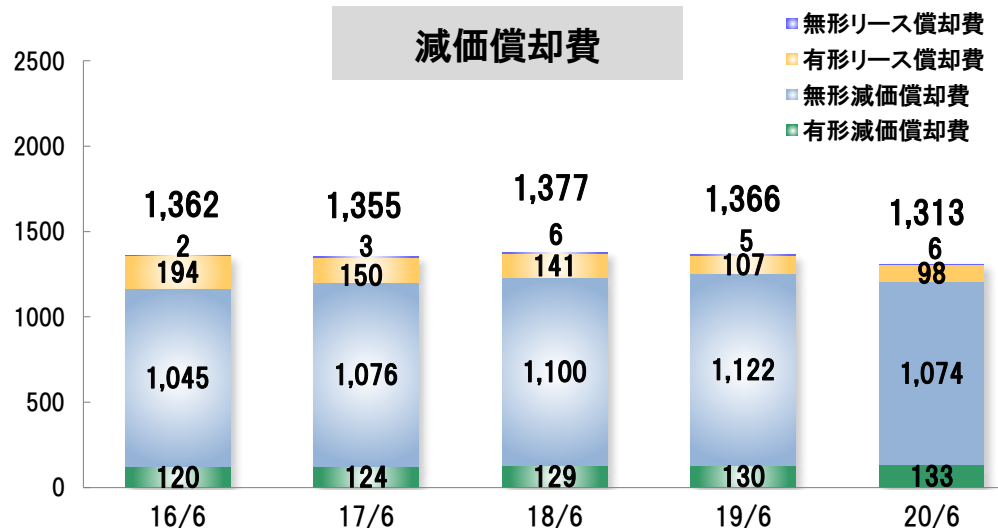
設備投資額



研究開発費



減価償却費



設備投資、研究開発費は
予定通り進捗

3-2) 2021年3月期 第1四半期 貸借対照表

コロナ禍においても、健全な財務状況を維持

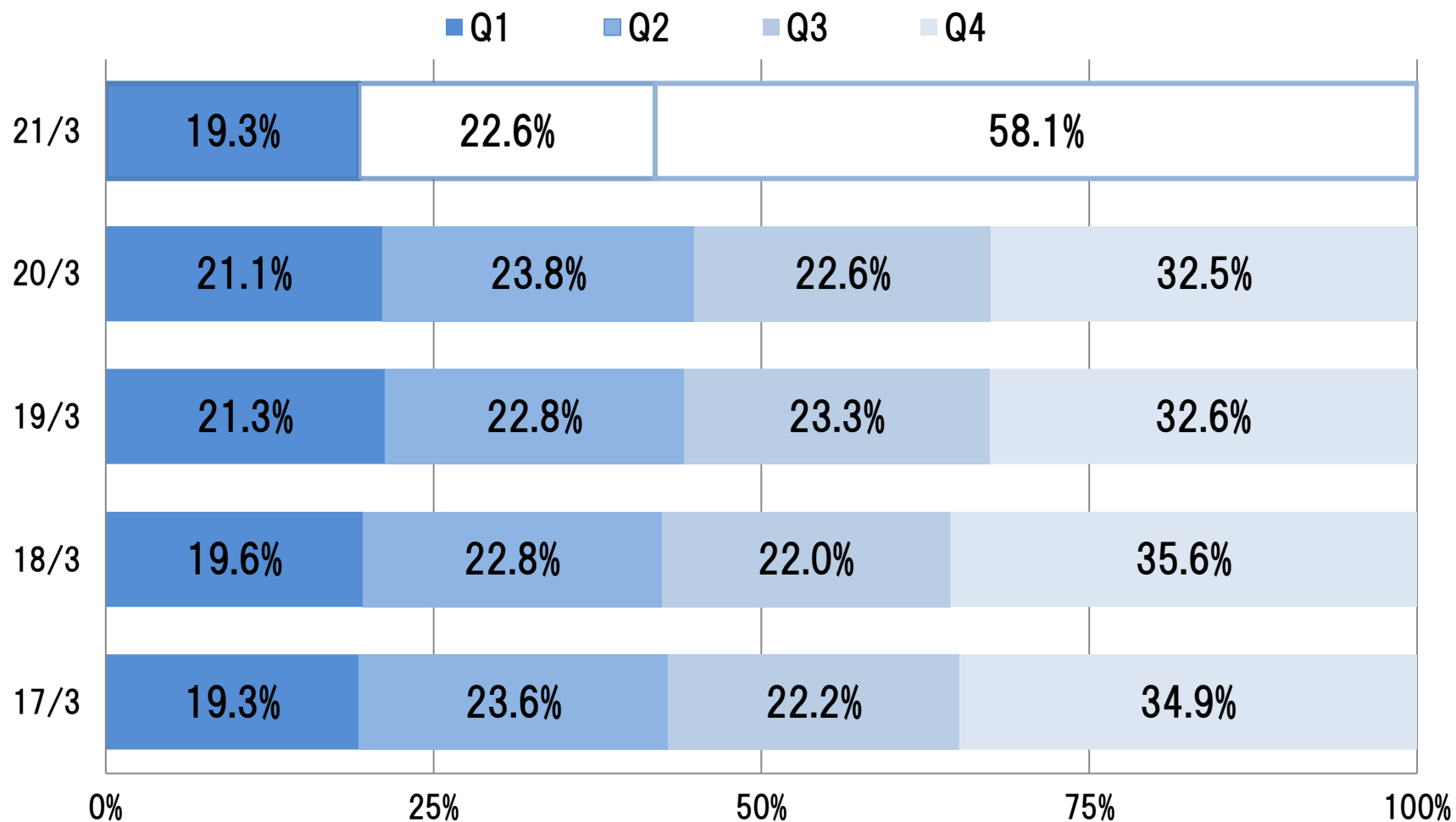
(金額単位:百万円)

	2020年3月末	2020年6月末	増減
資産	69,569	68,640	△ 929
流動資産	32,493	30,736	△ 1,756
現金及び預金	15,524	19,737	+ 4,213
固定資産	37,075	37,903	+ 827
負債	28,117	24,819	△ 3,298
流動負債	17,523	14,032	△ 3,490
短期借入金	1,350	743	△ 606
固定負債	10,594	10,786	+ 192
社債	8,143	8,131	△ 11
長期借入金	1,050	1,447	+ 397
純資産	41,451	43,820	+ 2,368
自己資本	39,715	42,175	+ 2,459
〔自己資本比率〕	〔57.1%〕	〔61.4%〕	〔+ 4.3pt〕

3-3) 四半期売上高構成比推移

2021年3月期 第1四半期決算

従来の季節的変動に加え、コロナ禍の影響により、下期以降の回復を見込む



3-4) 事業トピック（当社グループの主なニュースリリース・お知らせ）

2021年3月期 第1四半期決算

リリース日	タイトル
4月1日	株式会社ゼンリンマーケティングソリューションズ 4月1日始動（ZMS）
4月3日	ゼンリンデータコムとライナロジクスが業務・資本提携（ZDC）
4月13日	日本電信電話株式会社への第三者割当による自己株式の処分の払込完了に関するお知らせ
4月15日	パナソニック製カーナビ更新地図2020年度版「JAPAN MAP 20」を7月2日（木）から順次発売
4月22日	ゼンリンとMobility Technologiesが、道路情報の自動差分抽出の共同開発を行うことに合意
4月28日	自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ
5月13日	「ドコモ地図ナビ powered by いつもNAVI」において、混雑が一目でわかる地図機能「混雑度マップ」の無料提供を期間限定で開始（ZDC）
5月26日	歴史を映し出す地図の博物館「ゼンリンミュージアム」2020年6月6日（土）にオープン
5月27日	「ゼンリン住宅地図出力サービス」にCADソフトで利用できるDXF形式が新登場
6月4日	「ゼンリン住宅地図出力サービス ラージサイズ」に、「ラミネート加工」と「ホワイトボード加工マグネットシート」が新登場
6月9日	ゼンリンがHERE Marketplaceと連携
6月12日	ゼンリンデータコムとTOKAIコミュニケーションズの戦略的業務提携について（ZDC）
6月17日	AIを活用した乗降客カウントソリューション「Customer Count AI」をリリース（WST）
6月19日	公共交通事業者様向けのAIソリューション・Will-AI for Transportationの第一弾として「駅AIカメラソリューション」をリリース（WST）
6月24日	建設業の設計業務を効率化する地図配信サービス『ZENRIN GISパッケージ 建設 for 設計』を全国で販売開始

※詳細は当社ホームページをご覧ください(<https://www.zenrin.co.jp/information/index.html>)

※ZDC:(株)ゼンリンデータコム、ZMS:(株)ゼンリンマーケティングソリューションズ、WST:(株)Will Smart

■ゼンリンがHERE Marketplaceと連携 (2020年6月9日)

HERE Technologies ※ (以下、HERE)が提供する、位置情報を共有するためのグローバルハブ「HERE Marketplace」を、当社の新しいデータ流通チャネルとして利用することを発表しました。

HERE Marketplaceは、製品やサービスの開発とライセンス供与のワンストップサービスを提供する「HERE プラットフォーム」を構成するマーケットプレイス(電子市場)で、会員は興味のある商材やソリューションに対して、HERE、あるいは、当該企業へ直接アプローチができる仕組みです。

当社は、HERE Marketplaceを新しいプロモーションおよび販売のチャネルとして利用し、当マーケットプレイスを通じて、豊富かつ高品質な位置情報を提供することで、世界中のお客様の地図に関するニーズに対応し、データ市場の一層の拡大を目指します。

※HERE Technologies:オランダ アムステルダムに本社を置く、位置情報データおよび位置情報技術のプラットフォームをグローバルに提供する企業。

■建設業の設計業務を効率化する地図配信サービス 『ZENRIN GISパッケージ 建設 for 設計』を全国で販売開始 (2020年6月24日)

『ZENRIN GISパッケージ 建設 for 設計』は、建築士事務所・建築コンサルタント登録事業者向けに、設計業務で必要な情報の確認や、DXF 形式※の住宅地図がダウンロードできる地図配信サービスです。

CADソフト上でゼンリン住宅地図の図面を編集することができ、敷地図等の作成が容易になります。

1都道府県 1ID/月額10,000円(年間契約)の基本プランに加え、

1市区町村単位でも、1ID/月額2,000円(月間契約)でオプションとして追加可能です。

※DXF形式:CADソフトで作成する図面用のファイル形式の一種。Drawing Exchange Formatの略称



ZENRIN

Maps to the Future

株式会社ゼンリン <https://www.zenrin.co.jp/>
コーポレート本部
IR問い合わせMail: zenrin-ir@zenrin.co.jp